

会誌『図書館界』

年6回刊(隔月刊、奇数月1日発行) ISSN0040-9669
主な記事：座標、論文、研究ノート、現場からの提言、書評・新刊紹介
主な特集：研究大会(シンポジウム、グループ研究発表)、図書館学セミナー
編集委員会の独自企画による特集・連載 など
『図書館界』のみの購読もできます。 各号定価1,500円

日図研刊行物

『塩見昇の学校図書館論：インタビューと論考』
学校図書館史研究グループ編著 語り手 塩見昇 2023.5 544p
定価2,970円 ISBN978-4-930992-30-7

『日本図書館研究会の75年：日本図書館研究会のあゆみ1996-2021』
日本図書館研究会編 2023.3 282p
定価4,400円 ISBN978-4-930992-29-1

『情報資源組織法』日本図書館研究会編 2020.5 337p
定価2,090円 ISBN978-4-930992-28-4

『図書館・図書館学の発展：2010年代を中心に』
日本図書館研究会編集委員会編 2020.3 374p
定価4,950円 ISBN978-4-930992-27-7

『文化の朝は移動図書館ひかりから：千葉県立中央図書館ひかり号研究』
オールヒストリー研究グループ編著 2017.3 12,259p
定価4,400円 ISBN978-4-930992-23-9

『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会編
2015.4 245p 定価1,210円 ISBN978-4-930992-22-2

その他の刊行物はホームページをご覧ください。
日販・丸善・紀伊國屋書店・Amazon・楽天ブックス等でもご注文いただけます。

年会費

個人会員5,000円 団体会員8,500円 学生会員3,000円(有職者を除く)
入会特典 日図研刊行物の中からご希望の図書を1冊進呈(新刊を除く)
ホームページの入会申込フォームをご利用ください。併せて、郵便振替用紙で
下記口座に会費をお振り込みください。入金確認後『図書館界』を発送します。
口座番号 ゆうちょ銀行 00910-0-57558
加入者名 日本図書館研究会

入会申込・お問い合わせ、刊行物のご購入は

日本図書館研究会事務局

〒550-0002 大阪市西区江戸堀2-7-32 ネオアージュ土佐堀205
TEL&FAX 06-6225-2530
E-mail : nittoken@ray.ocn.ne.jp
<https://www.nal-lib.jp/> ←入会申込フォームあり
X(旧 twitter) : @nal_tweet

事務局員は月曜・木曜11時~17時在室
日図研刊行物は非課税、送料無料で。

2024.3.現在

Nippon Association for Librarianship

日本図書館研究会

NAL

入会案内

持続可能な図書館と社会のあり方を求めて

図書館は、人類の所産である知識や情報を共有し活用するための社会的なしくみです。膨大な情報がネットワーク上で発信される今日、多種多様な情報を収集し、組織化し、提供する図書館・図書館員の役割は、高度なAI技術が登場した中であっても、欠くことのできないものです。

人と人とのつながりが希薄化している現代において、誰に対しても安全に資料・情報を提供する——日本図書館研究会(日図研)は、図書館サービスの基本に立ち返り、図書館を未来につなぐため、さまざまな活動を行っています。

多くの図書館員と図書館研究者が集い、協力しあって、研究と実践の融合を目指して活動する日図研に、あなたもぜひご入会ください。



日本図書館研究会 (日図研)とは

日本図書館研究会(日図研)は1946年に創立され、80年近い歴史を有する研究団体です。大阪市に事務局を置き、関西を中心にさまざまな活動を行っています。図書館・図書館情報学分野において日本を代表する研究団体の一つです。

会員数は個人会員665名、団体会員305団体(いずれも2024年2月時点)です。会員の内訳は、公共図書館・大学図書館・学校図書館等、多様な館種の図書館員に加え、図書館情報学を研究する大学教員や院生、図書館に関心をもつ市民や文庫関係者などとなっています。

日図研は、こうしたさまざまな属性をもった会員が集い、研究発表や現場の実践報告などを行って、会員の相互交流、研究や実践の活性化と向上を図り、図書館界の発展につなげることを目指しています。

日図研の特色の一つに、研究グループ活動が盛んなことが挙げられます。複数のグループが継続して研究例会等を開催しており、グループの研究成果は研究大会や研究例会等で発表されます。グループの例会には誰でも参加できますので、テーマ等に関心があれば積極的に参加されてはいかがでしょうか。

日図研はこんな活動をしています

研究大会

2023年度で65回目となる、日図研最大の研究集会。毎年、2月または3月に2日間の日程で開催されます。1日目は個人研究発表(公募)とグループ研究発表、2日目はタイムリーなテーマと多彩な講師・発表者によるシンポジウムが行われます。どなたでも参加でき、毎年100名以上の参加があります。開催案内は『図書館界』1月号とホームページに掲載されます。

【シンポジウム 最近のテーマ】

- 「読書バリアフリーと図書館」(2023年度)
- 「『図書館学の五法則』の実践(ランガタン没後50年)」(2022年度)
- 「コロナ禍における図書館パート2」(2021年度)
- 「コロナ禍における図書館～パブリックの再構築に向けて」(2020年度)

図書館学セミナー・国際図書館学セミナー

図書館学セミナーは1974年から開始され、毎年10月または11月に全日の日程で開催されます(ただし、国際図書館学セミナーの開催年は非開催です)。タイムリーなテーマ設定のもと、基調報告・事例報告・討議が行われ、毎回60～100人程度の参加があります。開催案内は、『図書館界』9月号とホームページに掲載されます。

国際図書館学セミナーは、3年に一度、上海図書館から発表者を招いて2日間の日程で開催されます。(今後の開催は見直しの予定です)

【図書館学セミナー・国際図書館学セミナー 最近のテーマ】

- 「図書館DXの可能性:日本・中国における変革の潮流と実践的取り組み」(2023年度国際図書館学セミナー)
- 「図書館における電子媒体資料の活用について:現状と今後の展望」(2022年度図書館学セミナー)

研究例会・特別研究例会

研究例会は、年10回程度開催されています。会員が日頃の研究成果や実践等を発表し、参加者と討議を行うことで、相互研鑽の場となっています。平日夜間や土曜午後の2時間程度を充て、参加人数は回によって異なりますが、平均すると20数名です。

特別研究例会は年1回、評議員会開催日の午前に行われます。館界の識者を招いての講演会で、毎年60～80人の参加があります。

各開催案内は、『図書館界』各号とホームページに掲載されます。

日図研主催の研究大会・研究例会・セミナーはすべて、会員・非会員を問わず、どなたでも参加できます。研究例会は参加無料です。

『図書館界』

『図書館界』(『界』)は1947年5月創刊、2024年で第76巻を数える日図研の機関誌です。年6回刊(隔月刊、奇数月1日発行)

学術雑誌として「論文」「研究ノート」「現場からの提言」のほか、「書評・新刊紹介」「座標」などを掲載しています。また毎年7月号は研究大会特集(シンポジウムの詳細とグループ研究発表論文)、1月号または3月号では図書館学セミナー特集(報告と討議)を掲載します。編集委員会の独自企画による特集や連載などもあります。

会員からの投稿を募集しています。「論文」「研究ノート」「現場からの提言」については、査読により掲載を決定します。投稿の際はホームページの投稿規定をご参照ください。

【編集委員会独自企画の特集・連載 最近のテーマ】

- 《特集・誌上対話》地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任
- 《解説HOT TOPICS テーマ4 何が変わる? 図書館サービス: 著作権法の権利制限規定の見直しを巡って》
- 《解説HOT TOPICS テーマ3 コロナ禍の中の図書館を考える》
- 《解説HOT TOPICS テーマ2 今、あらためてYA(ヤングアダルト)サービスを考える》

研究グループ

日図研には7人以上の会員で構成された研究グループがあり、これらのグループに研究助成を行って活動を支援しています。中には、情報組織化研究グループ、図書館サービス研究グループ、図書館学教育研究グループのように半世紀以上の歴史をもつグループもあります。

各グループは、月例研究会(例会)を開催したり、自主的に勉強会を行っており、例会は多くの参加者を集めています。グループの例会開催案内や連絡先は、『図書館界』各号に掲載されます。

【研究グループ】

- 情報組織化研究グループ
- 図書館サービス研究グループ
- 図書館学教育研究グループ
- オーラルヒストリー研究グループ
- 「マルチメディアと図書館」研究グループ
- 学校図書館研究グループ
- 図書館学資料保存研究グループ
- 比較図書館学研究グループ
- 読書調査研究グループ
- 児童・YA図書館サービス研究グループ
- 大学図書館研究グループ
- 筑波研究例会

図書館研究奨励賞

『界』掲載の「論文」「研究ノート」「現場からの提言」を審査対象に、今後の成長が期待される若手・中堅会員に授与します。授賞者には研究大会にて表彰を行い、賞状・副賞10万円が授与されます。